

平成22年6月29日

平成21年度 貸借対照表・損益計算書

「会社法」第440条第3項の規定に基づき、貸借対照表および損益計算書を掲示しています。

<目次>

1 . 貸借対照表	...	1 ページ
2 . 損益計算書	...	8 ページ

【本件に関するお問い合わせ先】

損保ジャパンひまわり生命保険株式会社 〒163-0435 新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 35F
経営企画部 TEL 03-3344-6704 FAX 03-3346-9415

1. 平成21年度(平成22年3月31日現在) 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成20年度末	平成21年度末	科 目	平成20年度末	平成21年度末
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
現金及び預貯金	24,455	32,988	保険契約準備金	1,007,542	1,054,852
現金	2	21	支払備金	18,076	20,155
預貯金	24,453	32,967	責任準備金	987,198	1,032,371
有価証券	993,085	1,030,306	契約者配当準備金	2,267	2,325
国債	523,145	560,887	代理店借	1,409	1,591
地方債	70,419	70,489	再保険借	1,478	1,205
社債	297,689	310,212	その他負債	8,277	7,564
株式	3,456	5,140	未払法人税等	1,209	67
外国証券	98,374	83,576	未払金	208	1,839
貸付金	15,869	17,162	未払費用	5,545	4,101
保険約款貸付	15,869	17,162	預り金	75	83
有形固定資産	898	1,197	金融派生商品	-	174
建物	419	458	リース債務	388	662
リース資産	384	647	仮受金	849	634
その他の有形固定資産	94	92	退職給付引当金	430	663
無形固定資産	1,884	4,625	役員退職慰労引当金	27	45
ソフトウェア	1,831	4,573	特別法上の準備金	693	794
その他の無形固定資産	52	52	価格変動準備金	693	794
代理店貸	265	174	負 債 の 部 合 計	1,019,859	1,066,716
再保険貸	2,699	1,206	(純 資 産 の 部)		
その他資産	21,808	21,401	資本金	17,250	17,250
未収金	15,098	15,244	資本剰余金	10,000	10,000
前払費用	439	444	資本準備金	10,000	10,000
未収収益	3,064	3,102	利益剰余金	25,967	27,283
預託金	2,383	2,451	その他利益剰余金	25,967	27,283
金融派生商品	686	23	保険業法施行規則附則	325	325
仮払金	58	85	第10条積立金		
その他の資産	76	49	繰越利益剰余金	25,642	26,958
繰延税金資産	12,210	13,164	株主資本合計	53,217	54,533
貸倒引当金	124	94	その他有価証券評価差額金	24	882
			評価・換算差額等合計	24	882
			純 資 産 の 部 合 計	53,193	55,416
資 産 の 部 合 計	1,073,052	1,122,133	負債及び純資産の部 合計	1,073,052	1,122,133

平成21年度末(平成22年3月31日現在)

1 会計方針に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては、3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法によっております。その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は時価法によっております。

(3) 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却は、それぞれ次の方法によっております。

- ・リース資産以外の有形固定資産
定率法によっております。
- ・リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引
リース期間に基づく定額法によっております。

(4) 無形固定資産の減価償却の方法

- ・ソフトウェア
利用可能期間に基づく定額法によっております。

(5) 外貨建資産等の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は3月末日の為替相場により円換算しております。

(6) 引当金の計上方法

貸倒引当金

貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社の定める「資産査定取扱規程」及び「同細則」に基づき、次のとおり計上しております。

個別債権毎に回収可能性又は価値の毀損状態を査定し、回収可能性に重大な懸念があると判断した債権又は重大な価値の毀損が生じていると判断した債権については必要と認められる額を引当てております。

また、上記以外の債権については過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引当てております。

なお、全ての債権は、「資産査定取扱規程」及び「同細則」に基づき、管轄部署が1次資産査定を実施し、当該部署から独立した部署が2次資産査定を行い、監査部が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、「退職給付に係る会計基準」(「退職給付に係る会計基準の設定に関する意見書」平成10年6月16日企業会計審議会)に基づき、当年度末において発生したと認められる額を計上しております。

(会計方針の変更)

当年度より、「『退職給付に係る会計基準』の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。なお、従来の割引率と同一の割引率を使用することとなったため、当期の経常利益及び税引前当期純利益への影響はありません。

役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当年度末要支給額を計上しております。

(7) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

(8) リース取引の処理方法

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(9) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)に従い、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジを行っております。

(10) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

平成21年度末(平成22年3月31日現在)

(11) 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。

- ・標準責任準備金の対象契約については金融庁長官が定める方式(平成8年大蔵省告示第48号)
- ・標準責任準備金の対象とならない契約については平準純保険料式

2 金融商品の状況に関する事項及び金融商品の時価等に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は生命保険事業を営んでいるため、保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用については、ALM(資産・負債の総合管理)の観点から、負債である保険契約の特性を踏まえ、長期的に安定した収益を確保することを基本方針としております。

上記の方針に基づき、当社では長期の円建債券を中心とした運用を行っております。また、分散投資の効果を享受するため、外貨建債券を一部組み入れているほか、保険約款に基づく契約者貸付を行っております。デリバティブについては、後述するリスクを低減するため活用しており、運用収益の獲得を目的とする取引は行わない方針としております。また、特別勘定資産の運用については、長期的に財産の価値を高めることを基本方針としております。この方針に基づき、運用を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社の保有する金融資産の内容及びそのリスクは以下のとおりであります。

預貯金

当座預金、普通預金(決済性預金)等を保有しておりますが、預金保険制度の対象外となっている外貨預金を一部保有していることから、預け先金融機関の財産の状況により、弁済されないリスクがあります。

円建債券

当社の保有する主な金融資産は円建ての債券であり、市場金利の変動により市場価格が変動する金利リスクを有しております。また、発行体が元利金を支払う義務を負っており、信用リスクを有しております。

外貨建債券

当社では外貨建債券を一部保有しており、円建債券が有している金利リスク・信用リスクに加え、為替市場の変動による為替リスクを有しております。

株式

当社では特別勘定運用資産として株式を保有しているほか、一般勘定資産として取引先等の非上場株式を保有しており、株式を発行する企業の信用リスクを有しております。

クレジット・デフォルト・スワップ(以下、CDS)

当社が保有する一部の債券について、その発行体の倒産等の理由によるデフォルト(債務不履行)リスクを回避するためにCDSを保有しております。

CDS取引は、対象債券の発行体の信用リスクの変動の影響を受けるほか、契約の履行の際には取引金融機関の信用リスクを有しております。

為替予約取引

当社は外貨建債券の為替リスクに対するヘッジ手段として為替予約取引を行っており、同取引に対してはヘッジ会計を適用しております。このため、ヘッジ手段である為替予約取引で発生する為替変動損益は、ヘッジ対象である外貨建債券で発生する為替変動損益と相殺されます。

為替予約取引は、為替リスクを有しており、取引の履行の際には取引金融機関の信用リスクを有しております。

保険約款貸付

当社は保険契約者からの預かり分である解約返戻金の一定の範囲内で、保険契約者に対して貸付を行っております。保険約款貸付は保険契約者の信用リスクを有しております。

未収金

未収金の大半は、収納代行機関によって契約者から収納された会社未入金(保険料及び団体保険に係る生命保険会社間の会社未入金)の保険料等であります。この未収金は収納代行機関等の財産の状況により、弁済されないリスクがあります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、取締役会決議によるリスク管理の基本方針として、「リスク管理基本規程」を制定しており、リスク管理を経営の重要課題と位置づけ、経営に重大な影響を及ぼし得るリスクを個別かつ統合的に管理し、経営体力に見合った適正な水準に収めることとしております。また、当社では取締役会の諮問機関としてリスク管理委員会を設置し、経営陣自らが積極的に参画するリスク管理体制を構築するとともに、収益部門や収益管理部門とは独立した統合リスク管理部門としてコンプライアンス・リスク管理部を設置しております。

平成21年度末(平成22年3月31日現在)

(4) 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額及び時価、並びにこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)参照のこと。)

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預貯金	32,988	32,988	-
(2) 貸付金			
保険約款貸付	17,162	17,162	-
貸倒引当金(*1)	8	8	-
	17,153	17,153	-
(3) 有価証券			
売買目的有価証券	13,553	13,553	-
満期保有目的の債券	843,200	862,317	19,117
其他有価証券	173,552	173,552	-
	1,030,305	1,049,422	19,117
(4) 未収金	15,244	15,244	-
資産計	1,095,692	1,114,809	19,117
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	23	23	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(174)	(174)	-
デリバティブ取引計	(150)	(150)	-

(*1) 保険約款貸付に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金であります。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預貯金

預貯金については全額満期のない預貯金であり、一部外貨預金を保有しております。外貨預金については3月末日の為替相場により円換算しております。時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(2) 貸付金

保険約款貸付

保険約款貸付については、貸付金額を解約返戻金の一定の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、金利条件等から時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

(3) 有価証券

有価証券については3月末日の市場価格等によっております。

なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項は以下のとおりであります。

売買目的有価証券

特別勘定運用資産として保有しております。なお、売買目的有価証券において、当年度の特別勘定資産運用損益に含まれた評価益は985百万円であります。

満期保有目的の債券

満期保有目的の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額及び時価、並びにこれらの差額については、次のとおりであります。なお、当年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	459,432	470,109	10,676
	(2) 社債	261,409	270,166	8,757
	(3) その他	36,744	37,563	819
	小計	757,586	777,839	20,253
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	43,076	42,463	613
	(2) 社債	6,287	6,148	139
	(3) その他	36,249	35,866	383
	小計	85,614	84,477	1,136
合計		843,200	862,317	19,117

平成21年度末(平成22年3月31日現在)

その他有価証券

その他有価証券の当年度中の売却額は31,171百万円であり、売却益の合計額は1,596百万円、売却損の合計額は389百万円です。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価又は償却原価及び貸借対照表計上額、並びにこれらの差額については次のとおりであります。

(単位:百万円)

	種類	取得原価又は 償却原価	貸借対照表計上額	差額
貸借対照表計上 額が取得原価又は 償却原価を超 えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	118,832	121,171	2,339
	国債・地方債等	89,868	91,513	1,644
	社債	28,963	29,658	694
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	118,832	121,171	2,339
貸借対照表計上 額が取得原価又は 償却原価を超 えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	53,336	52,380	955
	国債・地方債等	34,947	34,116	830
	社債	11,261	11,217	44
	その他	7,127	7,046	80
	(3) その他	-	-	-
	小計	53,336	52,380	955
	合計	172,168	173,552	1,383

上記の表中にある「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。当年度において、その他有価証券で時価のある債券について716百万円の減損処理を行っております。

当年度において、信用状態が悪化した企業の発行する社債について、満期保有目的の債券からその他有価証券への保有目的区分の変更を行っております。

(4) 未収金

未収金の大半は、収納代行機関によって契約者から収納された会社未入金保険料及び団体保険に係る生命保険会社間の会社未入金保険料等であり、短期の金銭債権であるため、帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないもの

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。

クレジット・デフォルト・スワップ(CDS)

(単位:百万円)

区分	デリバティブ 取引の種類等	契約額等		時価(*)	評価損益
			うち1年超		
市場取引 以外の取引	クレジット・ デフォルト・ スワップ	4,000	1,000	23	36
	合計	4,000	1,000	23	36

(*) 時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格によっております。

ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりであります。

為替予約取引

(単位:百万円)

ヘッジ会計の 方法	デリバティブ 取引の種類等	主な ヘッジ対象	契約額等		時価(*)	時価の 算定方法
				うち1年超		
時価ヘッジ	為替予約取引 売建 米ドル(対円)	その他 有価証券	5,111	-	174	先物為替相場によ っております。
	合計		5,111	-	174	

平成 2 1 年度末 (平成 2 2 年 3 月 3 1 日現在)

(注 2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(3) その他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式(*1)(*2)	0

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 当年度において、非上場株式について 2百万円の減損処理を行なっております。

(注 3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
現金及び預貯金	32,988	-	-	-	-	-
有価証券	72,063	94,799	79,629	107,251	38,440	620,414
満期保有目的の 債券	53,413	51,699	77,239	107,251	36,940	514,152
その他有価証券のうち 満期があるもの	18,650	43,100	2,390	-	1,500	106,262
未収金	15,244	-	-	-	-	-
合計	120,296	94,799	79,629	107,251	38,440	620,414

(*1) 保険約款貸付については、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けていないため、上記の表には記載しておりません。

(*2) 外貨建債券については、期末日を替レートで換算した金額を償還額として記載しております。

(追加情報)

当年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第 1 0 号 平成 2 0 年 3 月 1 0 日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第 1 9 号 平成 2 0 年 3 月 1 0 日)を適用しております。

3 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3 カ月以上延滞債権及び貸付条件緩和債権の合計額は 36 百万円であり、その内訳は次のとおりであります。

(1) 貸付金のうち、延滞債権額は 30 百万円であります。なお、破綻先債権額はありません。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和 4 0 年政令第 9 7 号)第 9 6 条第 1 項第 3 号のイからホまでに掲げる事由又は同項第 4 号に規定する事由が生じている貸付金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。

(2) 貸付金のうち、3 カ月以上延滞債権額は 5 百万円であります。

なお、3 カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として 3 カ月以上延滞している貸付金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

(3) 貸付金のうち、貸付条件緩和債権額はありません。

なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権及び 3 カ月以上延滞債権に該当しない貸付金であります。

4 有形固定資産の減価償却累計額は 793 百万円 であります。

5 保険業法第 1 1 8 条に規定する特別勘定資産の額は、15,200 百万円 であります。なお、負債の額も同額であります。

6 関係会社に対する金銭債権の総額は 275 百万円、金銭債務の総額は 261 百万円であります。

7 繰延税金資産の総額は 13,712 百万円、繰延税金負債の総額は 501 百万円であります。繰延税金資産のうち、評価性引当金として控除した金額は 46 百万円であります。

繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金 8,926 百万円、無形固定資産 3,402 百万円、未払費用 432 百万円、価格変動準備金 287 百万円、退職給付引当金 240 百万円、未払事業税・地方法人特別税 123 百万円であります。

繰延税金負債の発生原因は、その他有価証券の評価差額 501 百万円であります。

当年度における法定実効税率は 36.21% であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主要な内訳は、交際費等永久に損金に算入されない項目 6.5%、住民税均等割 2.9% であります。

平成 2 1 年度末 (平成 2 2 年 3 月 3 1 日現在)

8 貸借対照表に計上したリース資産の他、リース契約により使用している重要な有形固定資産として電子計算機等があります。

9 契約者配当準備金の異動状況は、次のとおりであります。

前年度末現在高	2,267 百万円
当年度契約者配当金支払額	1,528 百万円
利息による増加等	0 百万円
契約者配当準備金繰入額	1,586 百万円
当年度末現在高	2,325 百万円

10. 保険業法施行規則第 7 3 条第 3 項において準用する同規則第 7 1 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金 (以下「出再支払備金」という。) の金額は 176 百万円、同規則第 7 1 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金 (以下「出再責任準備金」という。) の金額は 2,275 百万円であります。

11. 1 株当たりの純資産額は 2,033 円 63 銭であります。

12 外貨建資産の額は 10,641 百万円 であります。(主な外貨額 94 百万米ドル、7 百万ユーロ)
外貨建負債の額は 1 百万円 であります。(外貨額 0 百万米ドル)

13 保険業法第 2 5 9 条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当年度末における当社の今後の負担見積額は 2,787 百万円 であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。

14. 退職給付債務に関する事項は次のとおりであります。

(1) 退職給付債務及びその内訳

イ 退職給付債務	797 百万円
ロ 年金資産	- 百万円
ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)	797 百万円
ニ 未認識数理計算上の差異	132 百万円
ホ 未認識過去勤務債務	1 百万円
ヘ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ+ホ)	663 百万円
ト 前払年金費用	- 百万円
チ 退職給付引当金	663 百万円

(2) 退職給付債務等の計算基礎

イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
ロ 割引率	1.5 %
ハ 数理計算上の差異の処理方法	発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数 (1 3 年) による定額法により按分した額を発生翌年度から費用処理
ニ 過去勤務債務の額の処理方法	発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数 (5 年) による定額法により費用処理

15. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

2.平成21年度〔

平成21年4月 1日から

平成22年3月31日まで

〕損益計算書

(単位：百万円)

科 目	年 度	
	平成20年度 〔平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで〕	平成21年度 〔平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで〕
経常収益	260,182	258,426
保険料等収入	241,458	236,238
保険料	236,671	232,187
再保険収入	4,786	4,050
資産運用収益	18,655	22,095
利息及び配当金等収入	17,546	18,121
預貯金利息	0	-
有価証券利息・配当金	16,998	17,534
貸付金利息	525	580
その他利息配当金	22	6
有価証券売却益	736	1,596
有価証券償還益	-	179
金融派生商品収益	371	-
為替差益	-	6
特別勘定運用益	-	2,191
その他経常収益	68	93
年金特約取扱受入金	0	2
保険金据置受入金	61	83
その他の経常収益	7	7
経常費用	249,067	254,338
保険金等支払金	159,576	147,861
保険金	21,583	20,970
年金	829	897
給付金	21,188	22,121
解約返戻金	109,171	97,900
その他返戻金	1,786	1,119
再保険料	5,016	4,851
責任準備金等繰入額	33,040	47,251
支払備金繰入額	786	2,079
責任準備金繰入額	32,253	45,172
契約者配当金積立利息繰入額	0	0
資産運用費用	4,624	1,519
支払利息	16	37
有価証券売却損	116	389
有価証券評価損	1,296	719
金融派生商品費用	-	299
為替差損	0	-
貸倒引当金繰入額	13	-
その他運用費用	71	73
特別勘定資産運用損	3,110	-
事業費	50,541	56,105
その他経常費用	1,284	1,600
保険金据置支払金	12	26
税金	879	862
減価償却費	178	331
退職給付引当金繰入額	208	270
その他の経常費用	5	107
経常利益	11,115	4,088
特別利益	230	3
特別法上の準備金戻入額	230	-
価格変動準備金	230	-
その他特別利益	-	3
特別損失	32	108
固定資産等処分損	32	8
特別法上の準備金繰入額	-	100
価格変動準備金	-	100
契約者配当準備金繰入額	1,782	1,586
税引前当期純利益	9,530	2,396
法人税及び調整額	5,108	2,549
法人税等合計	1,444	1,469
法人税等純利益	3,663	1,080
当期純利益	5,867	1,315

平成 2 1 年度

1. 関係会社との取引による収益の総額は 10百万円、費用の総額は 1,621百万円であります。
2. 有価証券売却益の内訳は外国証券 895百万円、国債等債券 701百万円であります。
有価証券売却損は国債 389百万円であります。
3. 有価証券評価損の内訳は社債 716百万円、株式 2百万円であります。
4. 支払備金繰入額の計算上、足し上げられた出再支払備金戻入額の金額は 109百万円、責任準備金繰入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金戻入額の金額は 61百万円であります。
5. 金融派生商品費用には、評価損が 208百万円含まれております。
6. 1株当たりの当期純利益の金額は、48円29銭であります。
7. 退職給付費用の総額は、400百万円であります。なお、その内訳は次のとおりであります。

イ 勤務費用	251 百万円
ロ 利息費用	6 百万円
ハ 期待運用収益	- 百万円
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	12 百万円
ホ 過去勤務債務の費用処理額	0 百万円
ハ 小計	270 百万円
ト 確定拠出年金への掛金支払額等	130 百万円
チ 退職給付費用	400 百万円

なお、確定拠出年金への掛金支払額については事業費として計上しております。

8. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。